

議会報告会・意見交換会記録（第8回）

1 日 時 平成30年4月18日（水） 午後 7時00分 開会

2 場 所 妙高市役所コラボホール

3 出席議員 12名

広報広聴委員長	横尾 祐子	議 員	植 木 茂
総務文教委員	佐藤 栄一	〃	村 越 洋一
建設厚生委員長	堀川 義徳	〃	阿 部 幸夫
建設厚生委員	山川 香一	〃	渡 辺 幹衛
産業経済副委員長	岩崎 芳昭	〃	八 木 清美
産業経済委員	木浦 敏明	〃	小 嶋 正彰

4 欠席議員 0名

議 員

5 市民出席者 15名

6 事務局員 3名

局 長	岩澤 正明	主 査	齊 木 直樹
係 長	堀川 誠		

7 件 名

議会報告会・意見交換会

- 1) 開 会
- 2) あいさつ 議会報告
- 3) 意見交換 「街中の賑わいづくり」
- 4) 閉会あいさつ
- 5) 閉 会

1. 開 会

○司会（岩崎芳昭） 皆さん、こんばんは。本日は時節柄お忙しい中、お集まりいただきまして大変ありがとうございます。妙高市議では、平成27年3月に制定されました、議会基本条例に基づきまして、開かれた議会を推進する取り組みの1つとして、議会報告会・意見交換会を開催しております。

ことは、18日、19日、25日の3日間、新井、妙高、妙高高原の3つの地域で開催してまいります。本日の新井地域は、担当議員6名と、運営補助6名で進めさせていただきます。最初に、担当議員の自己紹介をさせていただきます。

○広報広聴委員長（横尾祐子） 皆さん、こんばんは。広報広聴委員長の横尾でございます。委員会は総務文教委員をやっております。本日よろしくお願いたします。

○総務文教委員（佐藤栄一） どうもこんばんは。同じく、総務文教委員会の佐藤でございます。よろしくお願いたします。

○建設厚生委員長（堀川義徳） こんばんは。建設厚生委員会の委員長を務めてます。堀川義徳と申します。きょうは

よろしくお願ひいたします。

○建設厚生委員（山川香一） 皆さん、こんばんは。建設厚生委員会の山川香一と申します。よろしくお願ひします。

○産業経済委員（木浦敏明） 皆さん、こんばんは。産業経済委員会の木浦敏明です。どうぞよろしくお願ひします。

○司会（岩崎芳昭） 最後に、本日の司会進行を担当します、産業経済委員の岩崎芳昭と申します。よろしくお願ひいたします。なお、このような司会進行は不慣れなため、議事進行にはですね、皆様方から御協力をいただきながらですね、進めさせていただきたいと思っておりますのでよろしくお願ひいたします。

議会報告会、意見交換会につきましては後日、会議録の作成と予定しております。参加者の皆さんの個人名は公開されませんが、質問や意見交換における皆さんや議員の発言につきましては、会議録としてホームページに公開させていただきますので、御承知おきください。また、質疑や意見交換で発言される場合には、最初にお住まいの地域とお名前を発言くださいますようお願いいたします。なお、この会が終わりましたら、受付でお配りいたしましたアンケートに協力を宜しくお願ひいたします。

それでは、ただいまから、議会報告会、意見交換会を開催いたします。お手元に配付いたしましたレジメに沿って進めさせていただきます。

2. あいさつ 議会報告

○司会（岩崎芳昭） はじめに、横尾広報広聴委員長より御挨拶並びに議会報告をいたします。お願ひします。

○広報広聴委員長（横尾祐子） ただいま、御紹介にあずかりました広報広聴委員長を務めさせていただいております、横尾です。本日は、大変お忙しい中、そしてまた、寒いところ多数の皆様は議会報告会、意見交換会に御出席いただき誠にありがとうございます。日頃より、本市議会に対し、御指導、御協力をいただいた上、あたたかく見守っていただき心より御礼申し上げます。私のほうから、開催の主旨、目的をお話させていただきます。市民への説明責任と信頼関係を確保するため、市民の皆様に対しまして、直接議会報告と意見を聴く機会を設けています。いただいた意見を市長、執行機関に伝えるだけでなく、議会の活動につなげてまいります。まちづくりの政策決定過程への市民参加がこれからは重要になってくると思っております。最良の妙高市に導くため、皆様の御意見を議会としての政策提言に役立てて行く所存であります。ぜひ、忌憚のない御意見をお聞かせいただければ幸いです。

それでは、3月定例会で審議いたしました、平成30年の予算、主要事業の概要や質疑等について簡単に説明させていただきます。A3の資料を開いてください。なお、中にある1枚ものの資料は、データでみる妙高市、人口の推移、市の借金、貯金の資料となっております。参考資料としてごらんください。見開きの平成30年の予算・主要事業の概要をごらんください。市長から平成30年度、大きくは5つの方針により取り組みむと説明がありました。左上の「方針1 新しい価値を創造するまち・ひと・しごとづくり」その下の「方針2 世界に選ばれる観光先進地MYOKOの推進」、左下の「方針3 人・地域と一緒に健康長寿のまちづくりの推進」、右側上の「方針4 支え合いの強化と未来につながる地域協働の推進」、右下の「方針5 賑わいと活力を与える持続可能な地域基盤の整備」でありました。この5つの方針のもと、重点プロジェクトを中心とした実効性の高い施策を展開し、行政経営に関わる全ての皆様の協働により、未来を見据えたまちづくりを進めたいとのことでした。

新井地域に関しては、特に右中段の方針4では、図書館整備基本構想の策定と設計競技の実施、方針5では、道の駅あらい整備事業、地域経済活性化支援事業に取り組みむとのことでした。

3月定例会においては、市長からの予算の提案説明を受け、議員が質疑などを行いました。特に道の駅あらい整備事業についての質問、質疑が多数行われ、道の駅あらいの拡充の必要性について、市長は道の駅あらいの拡充は、

既存の道の駅における駐車場不足や農産物直売所の売り場面積の不足などの課題への対応を図るため、現在、既存エリア内での用地確保が困難なことから、国土交通省と連携を図りまして、計画地での拡張を行うとの答弁をされました。また、常任委員会における審査において、産業経済委員会の委員の質疑では、六・十朝市は出店者が減っており、600年歴史があり、今あるものを活かす取り組みを考えるべきだが、どうかとの質疑に対し、市長は、せっかくの歴史財産にプラスアルファの集客をつけ加えること、道の駅との相乗効果など、客層は違うが流れやつくり方があると思う。そして、さらに打ち合わせ等を行っている。との答弁がなされました。このほかにも予算が有効に使われ、市民生活の向上につながるよう、多くの質疑等を行っております。皆様の意見交換の時間の都合もございますので、以上であいさつ、議会報告とさせていただきます。

3. 意見交換 「街中の賑わいづくり」

○司会（岩崎芳昭） それでは次に、意見交換をさせていただきたいと思います。各会場ごとにテーマを設定させていただきまして、新井地域につきましては、正面にもありますが、テーマとしまして「街中の賑わいづくり」としました。日ごろ皆様方が思っていること、御意見などございましたら挙手をお願いしたいと思います。マイクをとおして、お住いの地区とお名前を述べてから発言をお願いしたいと思います。御質問のある方は挙手をお願いいたします。

はい、どうぞ。

○市内女性A ○○の駅の前で自営業をやっています、○○です。よろしくお願いたします。今回のテーマは街中、賑わいをテーマということで、いつも思っていることをこういう機会に質問したいと思います。妙高市は、住みやすい県内トップと聞きます。犯罪がない。災害が少ない。個人病院もあります。子育て環境には、恵まれている所だと私も思います。ですが、比較する基準のレベルがよくわかりませんが、本当に住みやすい街なのでしょうか。車の利用を前提に郊外へ安さ、便利さだけでどんどん流れていく。それも時代の流れと言ってしまうまでもありますが、わがまちを守るため、今私たちが何かしないと孫たちの代には商店街がなくなってしまいます。街の中の店は、店主の高齢化、そして後継者の不足、シャッターを下ろされているお店が目につきます。閉店の言葉を聞くたびに寂しくなります。何にもなく寂しくなっていく街を払拭するのは容易ではありません。高齢者にとっても買い物難民です。どん底からはい上がる知恵を皆様方からぜひ、お聞きしたいと思ってきょう来ました。先日の日報に掲載された、関川村ですか、スーパーKマートが2年ぶりにオープンして、地域の台所に貢献して喜ばれていると書いてありました。生鮮食品、日用雑貨など販売するミニスーパーマーケットをぜひ、市街地に再開できることを一市民として切に思います。どうぞ、皆様の知恵を貸していただけたらと思っております。よろしくお願いたします。以上です。

○司会（岩崎芳昭） 何点か問題がありますので、まずは、最初の住みよさの関係、また、そこら辺の中での商店街がなくなってしまうと、そこら辺、本当に基準がどうなのかってことなんですけども、その中の妙高市のいわゆる移住系、そこら辺について、これはどこの委員会になるのかね。

○産業経済委員（木浦敏明） 大変恐縮ですけど、私の思いでよろしいですか。

○○さん、ありがとうございます。私も同じ思いを持っている一人でございます。議会でもですね、度々質問させていただいておりますし、提案もさせておるところでございますが、まずですね、大前提としての人口減少というのは、これはすでに前提となっているという理解を皆さん方から一つ持っていただきたいなというふうに思っております。というのは、人口減少を遅くすることは、今の自然の力では不可能ということです。人口は、だんだん減っていくんだという前提で、これからの街をつくっていくかなきゃいけない。そういう頭を持ってもらうというの

が大事だと思います。その中でどうやって、街を質しめるということでございますが、今ここにいらっしゃる方、中心市街地の方多いと思います。私も商売やってた頃は、中心市街地で事務所を持っておりました。今は白山町に住んでおりますが、中心市街地には、だいぶ近いところに住んでいるということですね、一つわかることはですね、非常に住みやすいということです。中心市街地はやっぱり非常に住みやすい。駅もありますし、市役所もある。銀行もありますし、それから当時はまだスーパーもありました。今はスーパーは、なくなってしまってかなり住みよさがですね、落ちてきたなと言う思いでございますが、それにも増してですね、病院も近くにありますが、住みやすいというのが私は一番中心市街地の機能の一つであると思っています。であるから、何が言いたいかといいますと、住みやすい中心市街地に住めるような方法、住んでいただけるような方法をこれからとっていかなくちゃいけないんじゃないかなという思いでございます。住みやすい中心市街地ですね、もっと住みやすいような仕掛けをしていくことが私は大事だろうと、いうふうに思っております。住みやすいということがですね、実感として伝わってくればですね、周りにいらっしゃる方もですね、だんだん、だんだん真ん中のほうに寄ってくるんじゃないかなと、中心のほうに寄ってくるんじゃないかなと、そういう仕掛けをしていかなければいけないんじゃないかなという思いでございますので、そういう提案をさせてもらっておるところでございます。そんなところでよろしいでしょうか。

○司会（岩崎芳昭） それとですね、もう一つは中心市街地の中でいわゆる買い物をする場所がなくなってしまっている。そこら辺の対応というのは、非常に高齢者とか車のない人とか困ると思うんですけど、そこら辺、今後どういった...

○産業経済委員（木浦敏明） 買い物する場所についてもですね、提案をさせていただきましたが、これはやっぱりなかなか、行政で買い物をする場所を運営することは、なかなか難しいことだというふうに私は思っております。事業者はですね、どうしたらそこに店を開くかと言えばですね、採算が合えば店を開くわけですね。半径、この500メートル、1キロの中にですね、どれだけの人口がこの中心市街地にいるかという、採算ベースでの人口が居ないというのが現状でございます。なので、今私が申し上げましたが、なるべく、街の中にですね、人が住んでいただけるような仕掛けをつくって行って、人口がですね、人口密度が上がってくればですね、私は採算ベースに乗るようなビジネスが行われていくんじゃないかなと、そんなふうに期待をしておるところでございます。仕掛けはしましたが、叶いませんでしたというのが実情でございます。

○司会（岩崎芳昭） 長年ですね、中町の商工振興会の役やっていた、佐藤議員さんがいらっしゃいます。ちょっと突然で申し訳ないんですけど、商工振興会の経験も長いので、そこら辺の中で、中心市街地をどのようにみているか、そこら辺の状況。

○総務文教委員（佐藤栄一） ありがとうございます。長く私もやってきましたが、今、街の中で商工会が機能してるのは、たぶん二つくらいしかなくなってる状況じゃないかなと思います。本当に高齢化と商店の方がお辞めになってる数が非常に多いです、20年前からみれば、2、3割商店の数が減ってしまってますし、売上自身も非常に厳しくなってるのではないかなと思っています。その中で、これからの元気、どうやってつくってかかってというのは非常に難しいのがあるような気がしますし、今、商店街自身で買物が完結できない状況になってきているというのが、私一番大きな問題ではと思っています。とはいえ、すべての業種を揃えるのは、無理だと私もみるところありますし、多分高齢化が多いのと、後継者がいないというのが現実だと思います。その中で、どう元気を付けていくか、非常に難しい問題だと思うんですけど、ちょっと光が当たったと思うのは、下町さんあたりに移住の方が入ってこられたとか、そんなことで少し、街の中に新しい方々が入ってきていただくと、また元気が出てくるのではないかなという気持ちも持っております。他力本願みたいで申し訳ないんですけど、そんな中でも頑張ってい

なきやいけない。今、中町は、正直言って子どもは、小学生がたった2人でございますし、子どもの声が聞こえないまちになってきています。どの町内もそういったこと考えますと、ちょっと寂しいのと、やっぱりいろんな世代の人たちがいることが一つの町内の力になるような気がしています。これからまたみんなで、知恵をだしながら行かなきゃいけないなと思います。

○司会（岩崎芳昭） ほかに皆さん方から挙手をお願いしたいと思いますが、いかがでしょうか。

○市内男性A ○○に住んでます、○○と申します。よろしく申し上げます。例え話なんです、中町、朝日町で、納涼会とか歩行者天国すると人が集まってきます。あの雰囲気なぜ、平素できないのか一つ疑問があるものですから、確かに店舗、スーパーも含めてですね、数が減っていると。そうなんです、減ってるだけじゃあ見ていいんかということになると、例えばですよ、今、新井の駅を一番利用してるのは高校生ですよ。それからバス停留所がありますけど、若い連中をなんとか街の中に呼び込める施策はないんでしょうかね。それからシャッターが下りてる店、店舗、そこをですね、起業する若い人たちに斡旋する事業とかですね、そういうことを市でできないもんかということで、お聞きしたんですが、お願いします。

○司会（岩崎芳昭） 産経委員の木浦さん。

○産業経済委員（木浦敏明） 今○○さんが言われたようにですね、イベントやると大勢いらっしゃるんです。ただイベントはやっぱりイベントであって、イベントは日常にならないわけですね。それを日常にするには、非常に私も難しいなという思いしております。イベントを主催するセクターをふやせば、日々毎日イベントになって、そうすると人が寄ってくるかということ、これはまた私は違うんだと思いますね。逆にイベントに飽きてしまうと思いますんで、どうやって日常にしていこうかというような佐藤議員も言われましたが、非常に難しい問題でありまして、こんなこと言ってなんです、ここにいらっしゃるみなさんとですね、どんな知恵があるかということですね、一緒に考えていただければなというふうに思っておるところでございます。イベントに頼らないというのが私は大事なことだと思っています。

○市内男性A 今言ったのは、イベントの話じゃなくて、イベントであれだけ集まるっていうことは、何かをやれば集まるというポイントができるのではないかという話なんで、例えば、高校生がですね、電車乗って、待ち時間待ってるけども、喫茶店もない、食堂もない、行く場所がないわけですよ。そういうことをまず、例えば、若い連中にアンケート取って何が必要なのか、そういうことからですね、行政がやるべきじゃないでしょうかね。

○産業経済委員（木浦敏明） 非常にいい意見だと思います。非常にいい意見で、若い人たちからアンケートを取って何が必要かと。例えば文房具一つ買うにしてもですね、今、街の中で文房具買い求めるのは、なかなか難しいというのは皆さん御承知だと思うんですけども、そういう状況になっております。若い人たちに何が必要かということで、お店を、そういうものを置いていくということも大事な視点かと思えます。ただですね、これはホームページに載ってるんですが、新井駅の日当たりの乗降客数が1000人なんですね。1000人いて、そのうち高校生が何人いるかということを考え合わせますと、なかなかそれだけで、ビジネス、商売が成り立って行くのかという疑問は私も商売やってみましたんで、率直に感じておるところでございますんで、そういう視点も含めながらですね、どうやったら街の中に市民の目が向くかと、足が向くかということですね、行政を交えて一生懸命考えていかんやいけないかと、そんなふうに思っております。一つ私に考えがあるんですが、これは話はさせてもらってはよろしんですか。

○司会（岩崎芳昭） 今の問いに対する答えですか。ではなくて…。では、それはまたあとで。

○○さん、よろしいでしょうか。ほかに、どなたか。例えばテーマが街中の賑わいとなっておりますが、そこから若干外れたとしても差支えありませんのでどうぞ。

○市内女性B ○○の○○と申します。よろしくお願ひいたします。

本日は、いきプラの4階のことでまいりました。3月末まで4階に、JAさんのデイサービスひまわりが入っていたんですけれども、入札の具合がちよつとわからないんですけども、4月から空っぽの状態です。今までは、お昼を食べたおじいちゃん、おばあちゃんが1階に降りてきてくれて、お話をしたり、コーヒーを飲んだりして、人の対流があったんですけれども、今は、話し声も聞こえなくなりまして、また先ほども出ました六・十の朝市にもおじいちゃん、おばあちゃん、元気で歩いて行かれてたので、そういうお客さんもいたかと思うんですけれども、今は、そういうことはなくなってしまいましたし、今、一般のお客様が食事をされ、1時半頃を過ぎると静まり返っていきプラの人の交流もなくなってしまってる状態です。これに対しては、私たち店長会でもいろいろとこれから考えていかなければならないことだと思っておりますし、ことしも3回目になります、いきいきプラザまつりを開催しまして、すこしでもいきいきプラザのファンをふやしていきたいと店長会では考えていますが、皆様にも4階を埋めていただくようにいいお知恵をお貸しいただきたいと思っております。よろしくお願ひします。

○司会（岩崎芳昭） ありがとうございます。佐藤議員のほうからよろしくお願ひします。

○総務文教委員（佐藤栄一） 地元なもので、所管違うんですが、○○さんからも、いきいきプラザの中の1階では頑張っていたという事は、非常に感謝申し上げます。皆さんのおかげで、中町なり、いきプラ全体が元気になってるなと思ったんですが、この4月から突然4階が空になったということなんで、私もちょっと調べてみましたら、この4階は、福祉介護課の委託事業をあそこでやる形になってるということなので、委託を受けた業者がそこに入らないと結局埋まらないという形になったんですね。経過としましては、受託されたところが、もっと経費の掛からないほうに行ってしまったというのが経緯だと私も聞いております。ですから、これからもその業者が入らないのであれば、新しい道を考えなくちゃいけないと私は思います。幸いにもあそこには、社会福祉協議会も入ってますんで、そういった中で、社会福祉協議会のほうの事業を引っ張り出すとか、そういった工夫をしてなんとかやっていけないかなというふうには私は思ってます。一つは各町内ごとに元気づくり教室をやってらっしゃると思うんですよね。そういったものが町内単位から、少し広域で取り組む形とか、お茶を飲む場所をつくるとか、そういった形で皆さん方の例えば販売されてるものを一緒に出せるとか工夫をしていけば、まだ道はあるかなというふうには思います。もうしばらく、社会福祉協議会とも相談したいと思っておりますし、きょう、会議所からも来てますんで、会議所の皆さんともいろんな形でタッグ組めればなというふうには思っています。

○司会（岩崎芳昭） ○○さん、よろしいでしょうか。

○市内女性B はい、よろしくお願ひします。

○司会（岩崎芳昭） そのほかに皆さん、何かございませんでしょうか。どうぞ。

○市内男性B ○○の○○であります。中町生まれです、江戸時代の画家で森蘭齋という画家が居られるわけがあります。寛政年鑑においてですね、江戸時代における7画家と言われるような有名な画家であります。この絵がですね、この地域になかったかというといっぱいあるわけなんです。そして、私たちが調べて、私たちが展覧会をやっていたわけなんですけれども、所蔵された素晴らしい絵をですね数幅所蔵されて、私どもが展覧会に出させていただいた家が転居してしまい、地域からどこかに行ってしまうました。その絵やなんかは、私はどうなったのかな、これが一番気になることであります。そして今、斐太歴史資料館に森蘭齋の屏風が一幅展示されております。非常に工夫されて、説明も付いていますけれども、あそこは物置ですね。物置に森蘭齋のこれは言葉悪いですが、展示した人は苦勞しながらやっているんですけども、展示するべき場所ではないのではないかと、こんなことを思います。私どもはよそから人が来たときに、どこか妙高市を案内するといったときに、案内はほとんどないんです。新井別院くらいであります。そんなことを思っ、例えば、今の江戸時代ですね、素晴らしい絵描きでもあった森

蘭齋とか、それらを皆さんに周知するために、やはり美術館をつくるとか、ここに図書館がありますけども、その中に付随したものをつくっていくべきではないか、こんなことを思っております。図書館が新設されるということについて、どのような取り組みがなされているのかお聞かせ願いたいと思っております。

○司会（岩崎芳昭） 総文の佐藤議員お願いします。

○総務文教委員（佐藤栄一） ○○さんについては、森蘭齋について一生懸命活動されてきている。ここまでやってこられたということで、感謝申し上げます。最近ちょっと、森蘭齋の屏風の絵を見るチャンスが減ったなというふうには思っておりますが、この街の財産を一所懸命、新井だけではなくて、板倉とかいろんなどころからも作品を集めてきて、展示されきたというのは感謝してるところでございます。本当に街の財産だというふうには思っています。今、言われたとおり、森蘭齋の何があるかという別院の墓しかないなという気がしております。そのうちにあれを展示してくれといっても、なかなかできることではないと思いますし、ものをしっかり劣化させないようにしてなければいけないなということを考えますと、本当は美術館が一番良いんでしょうが、今図書館という話が浮上してきております。この図書館は、どんな形になるかは、先般のあり方検討会でいろいろ検討されてきていますが。美術館を併設するという話まではいっておりません。そういうことで、今進めているのは基本的に、これからの基本構想をどう決めるか。これが平成 30 年度で公募の市民の方々とか、そういった方々で検討していくという中身になっています。本当に場所的にスペースが取れる。街の中に図書館が出来て、大きなスペースが取れるのであれば、複合的なものになってくれれば一番うれしいかなと思っておりますし、私どもとしても、今は図書館というのは、貸館もなければ、貸本屋ではないと地域のコミュニティの核になるのが図書館だというふうには思っておりますので、そういったものも行政のほうに話しかけていきたいと思っておりますのでよろしくをお願いします。

○司会（岩崎芳昭） よろしいでしょうか。ほかに、御意見等をお願いしたいと思っておりますが、いかがでしょうか。

はい、どうぞ。

○市内男性C ○○の○○です。何でもいいんですよ。

○司会（岩崎芳昭） よろしいですよ。

○市内男性C この統合園ってありますね。これについて、場所的に水夢ランドあらいの所ですか、これは決定してるわけですかね。

○司会（岩崎芳昭） 総文ですかね。

○広報広聴委員長（横尾祐子） それでは、私のほうから今の○○さんの御質問にお答えいたします。一応決定でございます。しかしながら、まだ、斐太南保育園ですか、そちらの保護者の方が、やはりこちらの新井のほうに来るっていうのはどうかということで、こども教育課といろいろ説明会をなんとかして、納得していないというのが事実であります。それというのも、少子化でだんだん子どもがいなくなるのに、体育館の傍、新井小学校の傍に来るほど子供たちが移動するべきかという問題もあります。一応やはり新井小学校のほうには、矢代からも小学校の子供たちがスクールバスで来ておりますので、そういう観点から保育園のバスもこちらのほうに来るということが一番便利がよくて、危なくないということで、一応決定はしているんですが、今話し合いがなされているのが実際の話でございます。

○市内男性C じゃあ、今のことで、あそこはいろいろな施設がありますよね。駐車場というアリーナの前ですね、それと近くでは文化ホールの駐車場もある。アリーナの駐車場で、特に土日中心とした、あるいはそれ以外でも、結構車がとまっていると、そこへ統合園が入ってくると、子供たちの安全とかそういう面でも大変だなと思っております。あるいは、運動公園ですね。確か、プールがある。あるいはアリーナがある。あそこに緑地帯ということで、公園がつくられましたよね。公園というか、緑のどこ。そのエリアは何パーセントって決まってそのとおりのスタ

ートしたと思うんですが、何年も経たないうちに、その所へ統合園つくるとかということについては、いろいろなことを考えてスタートしたのかなと思うと、駐車場の除雪やなんかは、今、山ほどあそこへ全部集まりますんで、それからマイクロバスやなんかあそこへ入ってますよね。あそこ、聞くとところによると水を流して除雪すると、そういうことで動いているんですかね。その辺ちょっと今の。

○司会（岩崎芳昭） 横尾議員。

○広報広聴委員長（横尾祐子） 除雪については、水を流すということはよく存じておりませんが、やはり市役所のところにも最後雪がありましたし、そういう使わない所に雪を残して、私たちも市役所へ来ると除雪してほしいとお願いするんですが、生活道路、山間地での道路確保のほうで除雪費を使うということで、空き地には雪を置いているような状態でございます。そして、土日の保育園の子どもたちが危ないのではないかとということでは、土日は保育園は、お休みでありまして、今後保育園がもし出来るときには玄関口からすぐバスが乗られるような状態での登降園をすと考えております。緑地帯ということで当初、総合体育館が出来るときには、あその部分は当初はフットサルのコートができるようにするという市長の考えもありましたが、コートにはならず、私もスポーツしておりますが、サブアリーナと思いましたが、やはり何とか高校など使ったりして既存の体育館を使うことで皆さん我慢しているところであります。また、保育園につきましては、第三保育園が非常に古くなっておりまして、やはり駐車場もない。また、第三保育園をどこへ子どもたちを行くかということ、上のほうにはやはり無理だということ。そしてまた、市有地の中で建設するといことで恐らく今の総合体育館傍につくることが一番学校区として危なくないのではないかとということで決定されたことだと私も思います。

○市内男性C 私、今車の駐車場の問題、それから緑地帯、それから一つは井戸を掘って消雪するとそういうことについては、今のプールの脇は、地熱を利用しやっているんですよね。深さが何百メートルのところから地熱を取り上げている。そうすると少なくともあのエリアの所に井戸を掘るといことは、今度プールのほうにも影響しますね。そんなことで、皆様から考えていただきたいと思います。理想的には、統合園というの、環境のいいところへつくっていただければと思っています。以上です。

○司会（岩崎芳昭） ありがとうございます。ほかに皆様方からいろいろな形の意見、街中の賑わいを含めてですね、御意見をいただきたいと思います。いかがでしょうか。どうぞ。

○市内男性D ○○の○○と申します。私は、この地域にしかいませんのでわからないんですけど、皆さん市議員でいろいろなところへ出かけていると思いますけど、妙高市と同規模の市町村でですね、全国的にまちづくりで成功した事例ってないんですかね。例えばそういう所を参考にしながらまちづくりをやっていくとか、一つの手かなと思うんですが、私、個人的にはですね、人口減少の時代にあってですね、このまま行ってもですね、いくら手を打っても無理だと思うんですよね。先ほどの○○さんの何とかしてほしいという気持ちは、私も切実にわかりますけども、隣の高田行ったり、直江津行ったりどうかと、どこも大変だと思うんですよね。だから、そういう成功事例があれば参考にしながらやっていくのも一つの方法だし、もう一つは個人的に言いますが、これ言うと賛否両論あるんですけども、人口は減ってるんだから、人口ふやす、ふやすたって簡単にふえませんか、移民ですよね。ただの移民じゃなくて、ある程度選ばれた移住者ですね。来ていただくという方法もですね、私はこれから政策の中で必要ではないのかなと思いますけどもね。以上です。

○司会（岩崎芳昭） わかりました。これも総文ですか。

○広報広聴委員長（横尾祐子） ○○さんの御意見でございますが、今年度ですね、移住者ということで事業を計画しております。それは、ひとり親家庭の移住支援ということです。妙高市以外の地域にお住いの子育てして、ひとり親、まあ、お母さんと子どもさん、お父さんと子どもさんという方が、妙高市に来ていただいて、住んでいただく。

そういうところの住居を一応妙高市では、支援する形ということで、そういうことで移住、子どももふえるということで、そういう事業を計画しているところでありますが、ことしからですので、どういうふううまくいくかどうかはわかりませんが、多分、市長はそういう施策を考えてする市長なので、何とか私たちも期待をしているところでは。

○司会（岩崎芳昭） もう一点あったんですけども、木浦議員のほうで、中心市街地で成功しているようなのあれば。

○産業経済委員（木浦敏明） 人口3万人の市を探すだけでも結構大変でございまして、私はですね、まだ期数も浅いもんで成功事例は持ち合わせていませんが、成功事例にですね、習って一生懸命やるのも大事なことで、妙高市は妙高市の特性がありますから、それを前面に出して何とか切り開いていくということも大事じゃないかなというふうに思っておるところです。すみません。回答になってなくて。申し訳ないですが。参考になりました。ありがとうございます。

○司会（岩崎芳昭） よろしいでしょうか。

○建設厚生委員長（堀川義徳） すみません。私、移住ということで、ここはなぜか建設課が移住定住のほうの住宅支援とかやってますんで私の所管なんですけど、先ほどの実際の街中の成功事例がないかという話とですね、割と小さな例えば行政全体で何万人の町自体が、全体が人口が増えたとかこういうのはなかなか少ないんですが、小さなピンポイントで事例がいくつかあるんですけど、まず「よそ者」、「若者」、「馬鹿者」とうことで、ここにいる人たちがずっと今まで何十年も住み続けてきて、考えて結果的に結果が出ないということになるとですね、やはり一番いいのはこの地域がいいと言ってですね、よそからここに住み着いてくれる人がなんかやろうということが一番成功している事例が多いということです。そこで一番大事になってくるのは、とかく私も田舎に住んでると、都会から例えばよその人が来るとですね、「あいつ何者だ」、「何しでかすんだ」ということで、ちょっと一歩引いてどうせうまくいかないだろうとみたいな形で見ってしまう傾向が非常に多いんですが、実は私も結構県外から移住された話を聞くとですね、もっと何で地元の人は妙高市のいいところがわかんないのかねっていう話を聞くんです。ですので、ごく小さな成功事例かもしれませんが、妙高市に数十人という形で移住されてる方がいらっしゃいます。私、今考えてるのは、そういう人たちとのネットワーク、横のつながりも大事なんですけど、来て下さった方をですね、本当に自分の子供や孫のように受け入れる、地元の体制というのが非常に来る人のですね、いつまでも住んでてもらったり、本当によければ自分の知り合いや友達を、例えば名古屋や東京からここ妙高ってすごいい所で、近所の人もすごく優しいしね、畑で野菜採ったら分けてくれるんだよってことになると、こんない所っていうことで、その友達をまた連れて来たりとかっていうようなつながりがでてくるということを考えると、来てくれ、来てくれというふうに行政もまちの人も言うんじゃないで、もし来てくださった場合には、心広げて、本当に来てくれてありがとうという気持ちでですね、受け入れる側のほうの気持ちの変化というのも私は大事だと思います。ですので、先ほど横尾議員も話しされましたが、ひとり親家庭ですね、国のモデル的にやるんですが受け入れると言った時にはですね、なんだ、シングルマザーでというような形ではなくて、本当に地域の人が、心の中に、よく子供連れてきてくれたねっていうような気持ちで受け入れる、これちっちゃなことかもしれませんが、実はその人にとっても、その友達や今度繋がってきってくれる人にとっても、すごく一人一人の小さなことなんですけど非常に大事になってくると思いますんで、おそらく街中の賑わいということで非常に大きなテーマかもしれませんが、実は小さなことの積み重ねでやってくしかないというふうに思ってますんで、そういったことで、この間、若い方も朝市出て、少しでもよくなって形で、ああいう人たちが心でですね受け入れて、協力してあげようという気持ちになっていくということがですね、本当にハード面だけじゃなくて、ソフト面でサポートしていくっていうのは、我々議員もそうですし、そこに住んでいる街の人たちの心も大事かなというふうにも思います。

○産業経済委員（木浦敏明） ○○さん、すみません。○○さんの質問の移民と言うのは、移住とイコールと考えてよろしいですか。

○市内男性D 私は国内の方から来ていただくのもそれも一つの方法かと思います。でも、もうそんな時代じゃないのかなと。逆に台湾とかね、そういう所から来てくれる人がいれば、それを受け入れてもいいような時代じゃないのかなと、私はそういうふうに思います。いろいろ賛否両論ありますけど、そういう意味も含めて移民と言ったんですけどね。

○建設厚生委員長（堀川義徳） そうですね、本当に大きな問題というか、日本も人口減少だといって、一番手っ取り早いのは、外国人の移住をもっと規制緩和といいますか、簡単にやれば良いんですけど、恐らくそうなることは、非常にいろんな意味でも難しいというふうなところだと大きな所ではそんなところだろうと。どちらかという外国人移住というよりも、出生率を上げて、少子化にストップを掛けて、出生率2.8を目指して50年後の人口1億人キープというところの国の政策だと思ってそれに向かって、自治体もやってるというふうなところで、恐らくそこまではまだだと思えます。

○司会（岩崎芳昭） よろしいでしょうか。そのほかに皆さんから御意見いただきたいと思いますがいかがでしょうか。地元で、商店を開いている、○○の○○さんいかがでしょうか。ぜひ、日頃の感想でも結構ですし、お聞きしたいと思えます。

○市内男性E ○○の○○です。こちら見ますと、道の駅新井整備事業に3億円、そして商工会議所、商工会各種商工振興会などが実施する地域内の消費喚起を促進する取り組みに対する補助が1880万円であらう、街中の賑わいに対するお金のつけ方が少ないなど、こう感じるんですがいかがですか。それともう一つ、何年かにわたってプレミアム商品券ですか、1割補助していただいて、我々商店主としては非常に助かった面もあるんですが、残念ながらここ数年減額され、そして廃止されてしまったんですが、それに対する評価とか、今後、再考することはないのかなと考えております。その二点お願いします。

○司会（岩崎芳昭） 一点目は街中に対する支援や事業予算が少ない。二点目が地域での買い物促進の関係です。

○産業経済委員（木浦敏明） 実は私、産経委員会に昨年の8月以降からなっておるわけなんです、一番最初に委員会で質問させてもらったのが、○○さんが言われたですね、予算配分の自然じゃない点ですね、それ私もそう思って、私も委員会で質問させてもらってます。まだ変わってきておりませんので、これからですね、私委員会の中で質問していきたいと思っております。ここに出ておりませんが、観光商工、観光と商工、同時に行っております。妙高市の中ですね。観光と商工の配分についてもですね、非常に大きな開きがあると感じておりますのでそれは委員会の中で質問させていただいております。議員として大変恐縮ですが、議員としてはそれ以上に何もできませんが、それをもう少し強くお願いしたいと思っております。地域商品券、これは議会の中で非常に人気のある事業でもありました。それから商工関係者においても非常に効果がある事業であるというふうに思っております。それで、大変恐縮なんです、予算が全くついてないわけではないんですが、小さい声で言いますが、商工会議所の専務さんいらっしゃいますが、これはことしはどのような按配で。

○新井商工会議所専務 市の補助金を受けて、新井商工会議所の独自の予算をまたことしも組ませてもらっております。以上でございます。

○産業経済委員（木浦敏明） ○○さん、そういうことでございますので、まだ地域商品券は存在しているということの御理解でお願いしたいと思います。

○司会（岩崎芳昭） 今、ちょうど商工会議所の専務がみえてるんですが、地域商品券等、新井の場合は違うんですね。

○新井商工会議所専務 具体的な話になりましたので、お話しさせていただきますけども、市からプレミアム分をいただくような形の商品券事業は2年前に終わりました。先ほど出ております、市の補助金の中で地域の買い物ができるものに支援しようという補助金をそれぞれの商工会、商工会議所等が活用する中で自分達の費用にプラスその補助金を加えて、プレミアム商品券事業は生きている地域もございます。そのほかに、リフォームの補助を商品券で出していただきまして、もう一回地域で回るというような仕組みもしていただいておりますけども、なかなか今ほども話がありましたように、それぞれが原資のないところですので規模的にはかなわない。それが仕入れで大手と非常に差のある街中の小規模店舗にとっては、仕入れに差があるという点では、1割カバーできるという点で、サービスできる点ではありがたい制度だというふうに理解しております。

○司会（岩崎芳昭） ほかに皆さん、御意見ございませんでしょうか。さん来夢の中にパティオという広場があるんですが、その奥で御商売されている〇〇さん、パティオの中での取り組み、感じていること等ありましたらこの場で述べていただければありがたいと思います。感想でも何でも結構です。

○市内女性C これだけは言おうと思って来たつもりなんですけども、皆さんのいろんな意見を聞きながら、そうか、これもそうかとそういう実感を感じながら、意見を述べるチャンスを失っておりました。要は、私も地元の間でございまして、朝日町というの、街の顔だというポリシーをずっと持ち続けてまいりました。そのためにどうしても、もう終わったまちだと、申し訳ないけど言ってほしくないんです。なんとかその顔を維持したいと常日頃そういう話をしてまいりました。ですから、いわゆる今のスーパーの後、それからスペース新井、あの部分は努力で継続しているだけであって、いわゆるお金に代わる、言い方汚いですけど、すぐ売りに代わる、繋がる、そういうような皆さん御存知のとおり設備ではございません。それをなんとか電器を点けておきたい、暗くしたくないという力で私どもが電器を点けたり、消したりというそういう形を継続していただいておりますし、今〇〇さんがおっしゃいました、街の中の補助金が、えらい少ないんじゃないかということも含めまして、スーパーのほうも家賃が高いからという、なかなか借手がいないだっという話も耳にもしましたけども、あの街づくり会社というのは、市が当初絡んで始めた事業でございますので、それをそのままにしておくことは、市にとっても顔が、何とか継続してないんじゃないかとも思われますので、そこら辺を補助金なり、何なりの形であそこにも電器点けてほしいです。さっき言った図書館もわかりですけども、一番思うのは、いわゆる高齢者の方が、車の運転できない方がバスで街へ出てきて、病院へ寄る。そして私どもの商売もそうですけど、いろんな用を足して、帰りに食料を調達して帰る。それが楽しみの場所であった訳ですよ。あそこの椅子やテーブルを使い、買い物したり、次のバスの時間を待ったり。そのスタイルが今、叶わなくなってしまって、車が運転できる方はどこまででも行けるんですけども、車の運転できない高齢の方たちが、若い方たちがみんな下へ降りちゃって、上にいらっしゃる方は、ほとんどがおじいちゃん、おばあちゃんの世帯ですよ。そうすると片方が亡くなったり、もう一人が亡くなったりすると自然と空き家になってしまうというのが現状でございますわね。それを食い止めるのというのは確かに難しいと思いますけど、やっぱり便利なところを一つつくってあげないと一番かわいそうだなと、出てきたらあそこで一通り用事が足りる。当初あのスペースをつくる時は、あのスペースだったら大きいスーパーが入るのは無理だと。だけど新井へ下りてきたら、とにかく一通りの用が足せる所をつくらうと、西協会長をはじめ、私らそういう考えでつくったものです。だから、スーパーに入っていただくためには、いろんなスーパーに視察にも行かせてもらいましたし、勉強させてもらいましたけど、あのスペースで大きいスーパーなんか来る訳もないですし、そういう経験もありますけど、とにかくあそこへ行ったら用事が足せる街をつくらうという考えで始まったものでございまして、それを電器消しておくということは、やっぱり高齢者の方が一番かわいそうだなと、常日頃思ってる次第でございます。そここのところも踏まえまして、この予算をどういうふうに割り振るのかわかりませんが、そ

こら辺も少し補助いただきながら、あそこに電器点けていただければありがたいと、それだけを言いたいと思いきょう参った次第でございます。よろしく申し上げます。

○司会（岩崎芳昭） では、代表して副議長どうですか。

○広報広聴委員長（横尾祐子） ○○さん、ありがとうございました。きょうのテーマに沿って、そして直結した素直な、実直な御質問、ありがとうございました。先ほど○○さんからも言われたときには、私、お話ししようと思ったんですが、私、美守にいるんですけども、美守にはスーパーあります。さんらいずがなくなってから、栄町の方、上町の方、そしてもしくは朝日町の方が、家の前を歩いて原信のほうへ行くんですね。そうすると、会うと「横尾さん、何とかしてよ。こんなとこまで歩いてこなきゃいけない」って、「運動、運動」って言うんですけども本当にその声聞くと、とてもさんらいずさん閉めたということで、噂からもショックでしたし、なんとかという思いもありましたが、原信にいても、小出雲の方が「なんとかならないかね。」って、さんらいずがなくて、みなさん料理をつくったり、そういう人たちが3人でも4人でも居て、電器の点いてない所に惣菜をつくるスペースで何かできないかねっていう声もあります。やはり私たち議員としてもなんとかしたいですし、議会、行政としてもそこは本当に思うとこなんですけど、そういう声を持ち上げていただいて、私たち議員としてもどんな形でも応援したいと思います。本当に今言われたとおり、電器が暗くなって寂しい通りになります。電器が点いているだけでも人が居ないねって言うくらいなんですから、電器は点けたいと思っております。きょうのテーマとして皆さんから御意見を聞いて、私たち、行政と一緒に、駅前通り寂しいです。以前に質問させてもらった、シャッター街になるんじゃないか。シャッターを開けて、その中で若い人が、何かいろんな形で活動していただければと思って、1年半くらい思いましたけども、一店舗もそういう所がなくて寂しいなと思います。駅前をなんとか、そして朝日町通りをなんとかしようというのは、議員全員が思っていることですので、今後皆さんの御意見、活発なことを言っていただくことによって私たちの尻を叩いていただいていると思っておりますので、前に進んでまいりたいと思っておりますので御理解お願いいたします。

○司会（岩崎芳昭） 時間の関係であと、お二方から御意見を伺いたいと思っております。どうぞ。

○市内男性D 街中の賑わいですか、ことしの6月から民泊が解禁になりますよね。例えばさんらいずですか、あれを民泊にしたらどうですか。そういう考えもありますけども。民泊いやだと、いろんな人が、外国人が来ていやだという人もあるかもしれないけども、ある程度人口流入を考えるとですね、民泊も一つの方法かなと私は思います。以上です。

○司会（岩崎芳昭） 民泊だと産経ですか。

○産業経済委員（木浦敏明） さんらいずですね、あの施設の採算が合えば、私はそれは悪い話ではないと思いますが、民泊では、あの施設の採算は合わないと思っております。それが合うようなラインまで行けばですね、民泊をやられる方も出てくるかもわかりませんが、今のところはそういうような状況だというふうにお聞きいただければと思います。

○司会（岩崎芳昭） もう、お一方くらいいかがでしょうか。どうぞ。

○市内男性F ○○の○○と申します。私はこの4月に妙高市に来たばかりで、まだ何もよくわかってないんですけども、いただいた資料の「データでみる妙高市」のナンバー18、観光客入込客数が県下で第3位となっていてちょっと驚いたんですけども、その内容、どういった目的で来られているのかということをお聞きしたいのが1点と、県内3位の観光客入込客数でありながら、なぜ商店街の賑わいに結びついてないのかという点をお聞きしたいと思います。

○司会（岩崎芳昭） まず、1点目の妙高市への来訪者の目的ということでまずお願いしたいと思います。

○産業経済委員（木浦敏明） この600万人のうちのおよそ300万人がですね、妙高高原等のいわゆる本当の観光地でですね、妙高高原、赤倉、いわゆる妙高高原エリアのお客さんでございます。もう300万人はですね、道の駅でございます。ですので道の駅に300万人が来ているということなんで、道の駅の辺に来ていらっしゃるお客さんを知恵を絞って街の中に引きこむという考えをですね、巡らしていくことは私は大事なことだというふうに思っております。そういう手立てをですね、私は街の中で打っていくというのがですね、行政が出来る部分じゃないかなというふうに思っておりますので提案をしていきたいと思っております。

○司会（岩崎芳昭） よろしいでしょうか。もう、お一方、時間もまだございますのでいかがでしょうか。

○市内男性D 何回もすみません。今の観光客の流入が600万人ですかね。それはそれで私わかるんですけども、実はその中で300万人は妙高高原で残り300万人は道の駅という話しましたよね。実は私、たまたまテレビで観てたんですけども、全国に道の駅は1100カ所くらいあるんですかね。新井の道の駅は、5年くらい前の話ですけど、300位くらいなんですよね。人気というかな。大体3割ですよね。それで、道の駅が300万人来てるという話聞いてたんで、たまたま道の駅の番組やってまして、千葉県の新井町というところがあるんですけど、発酵を売り出しにして、道の駅として頑張ってますね、そこはだいたい年間65万人、約6億の売り上げなんですよね。もう一つ、栃木県で結構評判がよくて、非常にはやっている所が140万人です。それ考えると、新井の道の駅で300万人来て、私はあそこの売り上げの規模はちょっとわからないんですけど、相当ありますよね。もし300万人であれば、例えば、千葉県の65万人に対して6億であれば、300万人であれば30億。単純に考えて、大ざっぱですけど。はたして、本当にそんなに来ているのかなという、ただ、その辺のですね、きちっとした数字を捉えないと、私は本当の施策は打てないと思うんですよね。本当にじゃあ誰が300万人図ったのか。高田の観桜会も100万人と言われてますが、本当に100万人来ているのかどうか。ただ300万人来ているからといって、いいわ、いいわということでは今回拡張しましたが、本当にそれだけ来ているのかなと、それをよくしっかり捉えていただきたい。根拠があれば、私は何も言わないんですけども、千葉とか栃木の例を出すんですけど、新潟の例えば冬、冬期間含めて年間300万人来ているのかというのは、実感なんです。以上です。

○産業経済委員（木浦敏明） 根拠については、大変勉強になりました。私どももですね、根拠について聞いていきたいと思っております。ただ、思うには、恐らくこれは、利用した人数だと思うんです。そうすると、レシートやらで全部把握できますんで、もしかすると、その1名を3回カウントしてるかもわかりませんが。そういう意味での300万人という数字なのかもわからないなという思いで今の質問聞かせてもらいました。ただ、私もこれは、役所に行って聞いてきた数字ですので、近いうちに根拠についてお伺いしたいというふうに思っております。ありがとうございます。

4. 閉会あいさつ

○司会（岩崎芳昭） 時間のほうもですね、なからの計画した時間になりました。この辺で意見交換会の区切りをしたと思います。皆様、本当にありがとうございました。活発にいただいた意見ですが、今後、これをですね、我々議会としまして、各委員会の中で課題等を整理しまして、市当局のほうに行政施策並びに運営に生かせるように取り組んでまいります。

5. 閉会

○司会（岩崎芳昭） 以上を持ちまして、議会報告会並びに意見交換会を閉会させていただきます。本日は遅くまでありがとうございました。なお、お帰りの際にですね、車等ご利用の方は事故に遭わないよう十分御注意してお帰り

いただきたいと思います。それから受付でお配りしましたアンケートにつきましては、御協力を宜しくお願い申し上げます。記入が終わりましたら、机の上に置いていただいて結構でございます。

どうもありがとうございました。

閉会 午後 8時 17分